

1 単元のねらい

江戸幕府の政治改革が次第に行き詰まりを見せるようになっていくことについて、社会の変動や欧米諸国の接近など、国内外の諸問題への対応や、新しい学問や思想が次第に庶民にも広まっていく過程から関連付けることができる。そして、幕藩体制が動揺し、倒幕へと向かっていく大きな時代の流れを、武士や百姓、町人などの立場から多面的・多角的に考えることが出来る。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどと基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解している。	・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発達と町人文化、幕府政治の展開と動揺について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・産業の発達と町人文化、幕府政治の展開について、そこでみられる課題を主体的に追求、解決しようとしている。

●学習改善につなげる評価 ☆評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6	7
知識・技能		●	☆		☆	●	☆
思考・判断・表現	●			☆			
主体的に学習に 取り組む態度	☆				☆	●	●

3 単元構造図(全7時間)

☆基礎的・基本的な知識, 概念や技能

単元名
産業の発達と
幕府政治の動き

【単元学習前の生徒の認識】 江戸幕府は様々な政策により, それぞれの身分に応じて, 支配を強めることで長期政権を築き上げていった。このように強大な力をもつ幕府政治は, この後どのようなようになっていくのか。

江戸幕府の政治改革は、どのようなようにして行われたのだろうか。

第1時 農業や諸産業の発達【●思・判・表 ○主体的】

どうして田畑面積や石高を増加させることができたのだろうか。

☆新田開発 ☆農具 ☆諸産業 ☆寛永通宝

江戸時代には農具や肥料などの技術の進歩し, 新田が開発されて収穫量を増やす工夫が行われた。また, 全国各地で諸産業が発達していった。これまで使われていた明銭などの中国銭が使われなくなり幕府の定める貨幣が流通し, 貨幣経済が発展していった。

第2時 交通路の整備と都市の繁栄【●知・技】

江戸時代の交通路や都市はどのように発展したのだろうか。

☆西廻り航路 ☆東廻り航路 ☆三都 ☆蔵屋敷 ☆株仲間 ☆南海路 ☆天下の台所 ☆五街道

江戸時代中期, 産業の発達とともに街道や水運など交通手段が整備され, 多くのものが大阪に運ばれたことで天下の台所として栄えた。その結果, 蔵を所有する証人は経済的に大きな力を持ち始めた。

第3時 幕府政治の安定と元禄文化

【○知・技】

徳川綱吉の時代にはどんな政治が行われ, どのような特色があったのだろうか。

☆元禄文化 ☆徳川綱吉 ☆朱子学 ☆新井白石

綱吉の時代になり幕府政治が安定し, 朱子学が広まったり古典が研究されたりした。商人は経済的に大きな力を持ち, 力をもった人々により, 上方の町人を中心に活気のある元禄文化が栄えた。

第6時 新しい学問と化政文化

【●知・技 ●主体的】

江戸時代には, どのような学問や文化が取り入れられ, 発達したのだろうか。

☆化政文化 ☆国学と蘭学 ☆教育の広がり

教育が普及し, 新しい学問や江戸の町人による化政文化が生まれた。国学は幕末の尊皇攘夷運動に影響を与え, 蘭学は西洋の文化を学ぶきっかけとなった。

単元の中心となる授業

第4時 享保の改革と社会の変化【○思・判・表】

徳川吉宗はどのように財政を立て直そうとしたのか。

☆享保の改革 ☆徳川吉宗 ☆問屋制家内工業 ☆工場制手工業 ☆一揆・打ちこわし ☆からかさ連判状 ☆貨幣経済

徳川吉宗は, 財政の立て直し, 収入を増加させるために新田開発や年貢率の引き上げ, 質素・儉約によって支出を減少させた。享保の改革により幕府の収入は増加し, 財政は立ち直った。産業の国産化が行われ, 工業の発達が進んだ。しかし, 貨幣経済の広がりにより, 農村では貧富の差が大きくなった。

第5時 田沼の政治と寛政の改革【○知・技○主体的】

田沼意次と松平定信の政治には, どのような特色があるのだろうか。

☆田沼意次 ☆松平定信 ☆寛政の改革

田沼意次は, 株仲間を奨励し長崎貿易を拡大して, 商業に力を入れることで財政を立て直そうとした。松平定信は, 農民を農村に返し, 米を備蓄させ, 農業で立て直そうとした。幕府は経済的に苦しい状況の中で, ロシアが通商を求め, 来航し幕府は拒否し, 蝦夷地の調査が進んだ。

第7時 外国船の出現と天保の改革【○知・技 ●主体的】

国の内外からの危機に対して, 幕府はどのように対応したのだろうか。

☆異国船打払令 ☆大塩平八郎 ☆水野忠邦 ☆天保の改革 ☆アヘン戦争

都市の繁栄と町人の台頭の一方で, 幕府や藩の財政が苦しくなり, 校内で百姓一揆や打ちこわしが頻発し, 役人である大塩平八郎も乱を起こした。次々に改革を進めるがうまくいかず, 幕府を批判する人たちも現われた。鎖国政策も外国船の出現で維持が難しくなってきた。幕府の支配力が明らかに衰えてきている。

【単元学習後の生徒の認識】 貨幣経済が広がり農村が変化したことで, 百姓一揆や打ちこわしが増え, 幕府の基盤が揺らいだ。また, 商人の力が強まり, 幕府は商人の力に頼らなければならなくなった。幕府は財政を立て直すために, 三度の改革を行ったが, どれも失敗した。幕府に人々を支配する力がなくなり, それまで支配されていた人達が立ち上がろうとしている気がする。今後幕府はどのようなようになっていくのだろうか。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	◇資料 指導・援助
1 農業や諸産業の発達	<p>年表から単元を貫く課題を設定し、田畑面積や石高が増えた理由を考えることを通して、新田の開発が行われたり、農具が進歩したりしたことに基づき、農業生産が増加するとともに、貨幣経済が広がったことについて考えることができる。</p> <p>☆新田開発 ☆農具 ☆諸産業 ☆商品作物 ☆寛永通宝</p>	<p>1 年表から、単元を貫く課題を設定する。</p> <p>江戸幕府の政治改革は、どのようにしておこなわれたのだろうか。</p> <p>2 田畑面積や石高が増加の資料から、本時の課題を設定する。</p> <p>どうして田畑面積や石高を増加させることができたのだろうか。</p> <p>3 農業の進歩と新田の開発の資料から、課題について追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人手が必要な作業を少ない人数でできるようになった。 ・農具や技術が進歩し、作業が短い時間でできるようになり、新田を作るようになった。 ・全国で新田が開発され、石高が増加している。 <p>4 特産物や商品作物の分布を見て、各地の特色を生かした産業が発展してきたことや貨幣経済が発展していったことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米だけではなく、麻、わた、あぶらなど、売れる作物を作っている。 ・陸路だけではなく水運も発達している。 	<p>江戸幕府の政治改革について主体的に追求しようとしている。(態度)</p> <p>田畑面積や石高が増加した理由が、農具の発達による効率化を図ったことや、技術の進歩、新田が開発されたことだと考えている。(思・判・表)</p>	<p>◇打ちこわしの様子と百姓一揆・打ちこわしの発生件数</p> <p>◇田畑面積の増加と石高の増加</p> <p>◇農業の進歩</p> <p>◇農業全書</p> <p>◇新田の開発</p> <p>◇諸産業の発達</p> <p>◇近世の交通と特産物</p> <p>農具の進歩を具体的に示すことで、増産をすることができた理由をとらえることができるようにする。</p>
		<p>江戸時代には、農具や肥料などの技術が進歩し、新田が開発されて収穫量を増やす工夫が行われた。また、全国各地で諸産業が発達していった。これまで使われていた明銭などの中国銭が使われなくなり幕府の定める貨幣が流通し、貨幣経済が発展していった。</p>		
2 交通路の整備と都市の繁栄	<p>江戸、大阪、京都の三都の様子を調べる活動を通して、貨幣経済の広がりから町人が力を付けてきたことに気づき、都市の繁栄や交通の発達を理解することができる。</p> <p>☆三都 ☆蔵屋敷 ☆株仲間 ☆南海路 ☆西廻り航路 ☆東回り航路 ☆天下の台所 ☆五街道</p>	<p>1 本時の課題を設定する。</p> <p>江戸時代の交通路や都市はどのように発展したのだろうか。</p> <p>2 江戸時代に繁栄した三都の特色をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸は、将軍の城下町で「将軍のおひざもと」と呼ばれ、人口は約100万人の大都市だった。 ・大阪は商業や金融の中心地で「天下の台所」と呼ばれ、諸藩の蔵屋敷が置かれていた。 ・京都は、西陣織など優れた工芸品を生産した。 <p>3 江戸や大阪を海の航路で結ぶことで更に交通が発達し、海運業が発達したことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海運業が発達したことで町人が豊かになった。 ・港にはたくさんの蔵ができた。 	<p>三都の繁栄の様子の特徴を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>産業・交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことを理解している。(知・技)</p>	<p>◇蔵屋敷</p> <p>◇都市の人口</p> <p>◇三都</p> <p>◇海上交通路</p> <p>都市の発達について具体的な事実をとらえることができるようにすることで、文化が形成される時代背景を理解できるようにする。</p>
		<p>江戸時代中期、産業の発達とともに街道や水運など交通手段が整備され、多くのものが大阪に運ばれたことで天下の台所として栄えた。その結果、蔵を所有する商人は経済的に大きな力をもち始めた。</p>		
3 幕府政治の安定と元禄文化	<p>徳川綱吉の政治の特色を理解したり、文学や浮世絵の作品などからこの時期の文化の特色を理解したりすることができる。</p> <p>☆元禄文化 ☆徳川綱吉 ☆朱子学 ☆新井白石 ☆井原西鶴 ☆松尾芭蕉☆俳諧 ☆近松門左衛門 ☆人形浄瑠璃 ☆歌舞伎☆浮世絵 ☆尾形光琳</p>	<p>1 本時の課題を設定する。</p> <p>徳川綱吉の時代にはどんな政治が行われ、どのような特色があったのだろうか。</p> <p>2 徳川綱吉の政治について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身分秩序を重視する朱子学を学ばせた。 ・慈悲の心をもたせるために生類憐みの令を出した。 ・貨幣の質を落として流通量を増やした。 <p>3 元禄の学問と文化についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語」、「万葉集」など古典に関する研究が進んだ。 ・17世紀末～18世紀はじめに上方(大阪・京都)を中心とした、町人を担い手とする文化だ。 	<p>生類憐みの令から綱吉の政治を理解したり、歌舞伎や風神雷神図屏風の様子などから当時の生活の様子を読み取ったりしている。(知・技)</p>	<p>◇生類憐みの令</p> <p>◇風神雷神図屏風</p> <p>◇歌舞伎の様子</p> <p>◇浮世絵</p> <p>◇松尾芭蕉</p> <p>現代でも見かけるような絵や引き継がれている伝統芸能と関連付けて資料を読み取ることができる。</p>
		<p>綱吉の時代になり幕府政治が安定し、朱子学が広まったり古典が研究されたりした。商人は経済的に大きな力を持ち、上方の町人を中心に活気のある元禄文化が栄えた。</p>		

<p>4 享保の改革と社会の変化</p>	<p>徳川吉宗が行った享保の改革の特色を調べる活動を通して、収入を増加させ、支出を減少させて、財政再建を図ろうとしたことと貨幣経済の広がりとその影響について理解することができる。</p> <p>☆享保の改革 ☆徳川吉宗 ☆公事方御定書 ☆問屋制家内工業 ☆工場制手工業 ☆小作人 ☆地主 ☆百姓一揆 ☆打ちこわし ☆からかさ連判状 ☆貨幣経済</p>	<p>1 年表から、本時の課題を設定する。</p> <p>徳川吉宗はどのように財政を立て直そうとしたのか。</p> <p>2 改革の内容と結果を資料から追究交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新田開発を進めたり、大名に対して参勤交代を緩めたりして収入を増やそうとした。 ・裁判の基準となる法を定めたり、庶民の意見を聞くために、目安箱を設置したりした。 ・武士に儉約させるだけでなく、米の値段を高く安定させ、収入を上げようとした。 <p>3 産業の変化の様子について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の広がりにより農村では土地を手放して小作人になる者や土地を買い集めて地主になる者がでるなど、貧富の差が拡大した。一揆や打ちこわしが頻発した。 ・輸入量の減少により、綿や生糸、絹織物などの国産化が進んだ。 <p>徳川吉宗は、財政の立て直し、収入を増加させるために新田開発や年貢率の引き上げ、質素・儉約によって支出を減少させたことにより幕府の収入は増加し、財政は立ち直った。産業の国産化が行われ、工業の発達が進んだが、貨幣経済の広がりにより、農村では貧富の差が大きくなった。</p>	<p>吉宗が行った財政立て直しの方法を、様々な身分の人々に対して行った政策から多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>(思・判・表)</p>	<p>◇享保の改革 ◇貨幣経済の広がり ◇工場制手工業 ◇からかさ連判状</p> <p>改革の内容について収入増加や支出減少を視点として示し、そのためにどんなことを行っているのか考えをまとめることができるようにする。</p>
<p>5 田沼の政治と寛政の改革</p>	<p>田沼意次の政治と松平定信の政治を比較して目的・方法などについて共通点や相違点について考える活動を通して、どちらも財政改革に取り組んでいることに気づき、さらに幕府だけではなく諸藩も財政難に苦しんでいたことを理解することができる。</p> <p>☆田沼意次 ☆松平定信 ☆寛政の改革</p>	<p>1 田沼意次と松平定信が政治改革を行ったことをつかみ、本時の課題を設定する。</p> <p>田沼意次と松平定信の政治には、どのような特色があるのだろうか。</p> <p>2 田沼の政治と寛政の改革の内容と結果をまとめ、比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田沼意次は、株仲間を公認したり、長崎貿易を拡大したりして商業に力を入れた。 ・寛政の改革で、出版の統制や贅沢の禁止など厳しく取り締まりを行った。農民を農村に返し、飢饉に備えて米を備蓄して農業に力を入れた。 ・二つを比較すると、田沼政治は自由な風潮があり、学問や商工業が発達したが、寛政の改革では、様々なことに対し制限が加わり、厳しい政治になった。 <p>4 ロシアの接近についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアの使節が通商を求めたが、警戒した幕府が交渉を拒否し蝦夷地の調査や直接支配をした。 <p>田沼意次は、株仲間を奨励し長崎貿易を拡大して、商業に力を入れることで財政を立て直そうとした。松平定信は、農民を農村に返し、米を備蓄させ、農業で立て直そうとした。幕府は経済的に苦しい状況の中で、ロシアが通商を求め、来航し幕府は拒否し、蝦夷地の調査が進んだ。</p>	<p>田沼意次と松平定信の政治の特徴を財政改革の視点からとらえ理解し、知識を身に付けている。</p> <p>(知・技)</p>	<p>◇長崎の出島での貿易 ◇田沼の政治 ◇寛政の改革 ◇諸藩の改革</p> <p>それぞれの改革において、支出減と収入増の視点で、改革の内容を自分でまとめることができるようにする。</p>
<p>6 新しい学問と化政文化</p>	<p>化政文化の特色について調べる活動を通して、国学や蘭学などの学問が発展したことに気づき、国学が幕末の尊王運動に影響を与えたことや、蘭学が西洋の文化を学ぶきっかけとなったことが理解できる。</p> <p>☆本居宣長☆国学 ☆杉田玄白☆蘭学 ☆伊能忠敬 ☆化政文化 ☆喜多川歌麿 ☆葛飾北斎 ☆歌川広重 ☆藩校☆寺子屋</p>	<p>1 オランダの医学書を見た時の医者達の考えを予想し、本時の課題を設定する。</p> <p>江戸時代には、どのような学問や文化が取り入れられ、発達したのだろうか。</p> <p>2 課題について追究し、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学や測量術などの面で大きく貢献した蘭学や、日本の古典を研究した国学が生まれた。 ・国学は、天皇を尊ぶ思想と結びつき、幕末の尊王攘夷運動に影響をあたえた。 ・藩校や寺子屋が作られ、教育が広く普及した。 ・19世紀はじめの江戸の町人が中心となった文化は化政文化といい、優れた風景画などの作品はヨーロッパにも大きな影響をあたえた。 <p>教育が普及し、新しい学問や江戸の町人による化政文化が生まれた。国学は幕末の尊皇攘夷運動に影響を与え、蘭学は西洋の文化を学ぶきっかけとなった。</p>	<p>国学が尊王運動に影響を与えたこと、蘭学が西洋の文化を学ぶきっかけとなったことを理解し、知識を身に付けている。(知・技)</p>	<p>◇二つの解剖図 ◇伊能忠敬の地図 ◇化政文化の資料 ◇教育の広がり ◇化政文化の資料</p> <p>それぞれの学問や文化の名前だけでなく、内容や特色をまとめることができるようにする。</p>

<p>7 外国船の出現と天保の改革</p>	<p>国の内外からの危機に対して、幕府がどのように対応したのかについて調べる活動を通して、幕府は鎖国を守ろうとしたが、国内では幕府の政策に対して人々が反乱をおこしたることについて理解し、幕府政治が行き詰まっていることに気付くことができる。</p> <p>☆異国船打払令 ☆大塩平八郎 ☆大塩の乱 ☆水野忠邦 ☆天保の改革 ☆アヘン戦争</p>	<p>1 外国船の接近と天保のききんの資料から、本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>国の内外からの危機に対して、幕府はどのように対応したのだろうか。</p> </div> <p>2 課題について追究し、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国船に対して入港を拒否する異国船打払令を出している。 ・ききんで多くの餓死者が出て百姓一揆や打ちこわしなども起こるようになり大塩平八郎が反乱を起こした。 ・水野忠邦が天保の改革を行い、儉約令を出し、株仲間を解散させた。しかし改革は2年で失敗してしまった。 ・藩によっては諸産業で発展し、力をつけてきたところもある。 <p>都市の繁栄と町人の台頭の一方で、幕府や藩の財政が苦しくなり、国内で百姓一揆や打ちこわしが頻発し、役人である大塩平八郎も乱を起こした。次々に改革を進めるがうまくいかず、幕府を批判する人たちも現われた。鎖国政策も度重なる外国船の出現で維持が難しくなってきた。幕府の支配力が明らかに衰えてきている。</p>	<p>国内外の危機に対し幕府がどのように対応しているかを追究し、理解している。(知・技)</p>	<p>◇年表 ◇外国船の接近 ◇天保のききん ◇異国船打払令 ◇大塩の乱 ◇天保の改革</p> <p>幕府の政策に対し、人々の反応はどうだったのかという視点で、資料を見て読み取ることができるようにする。</p>
---------------------------	---	---	--	---